

学びを一步先へ

岡山型  
PBL  
ガイドブック



令和5年3月  
岡山県教育委員会

# はじめに

---

人口減少社会の進展や人生100年時代、AI・IoT等の先端技術の高度化により、社会や生活が劇的に変化する時代の到来が予想される中で、AIにはない人間の強みである表現力や創造力を発揮しながら、未だかつて経験したことのない課題に対しても、他者と協働して納得解を見付け出し、新たな価値の創造とその実現に向けて努力できる資質・能力の育成につなげる教育が求められています。

岡山県ではこれまでも、「知育」「徳育」「体育」をバランスよく育成し、子どもたちが心豊かに、たくましく、自らの進路を切り拓いていく力を確実に身に付けられる授業づくりに取り組んできました。これらの大切にしてきた教育に加え、子どもたち一人ひとりが学びの原動力である「夢」を育みながら実現に向けて挑戦することで、自らを高める力等を育む「夢育」の推進を図っています。

「夢育」では、将来就きたい職業や叶うまでに時間のかかる大きな望みなど、自らの生き方の目標となる夢に加え、「今、自分が頑張りたいこと」などの身近な目標も「夢」と位置付けています。

義務教育段階の9年間を通して、地域社会とのつながりの中で挑戦する場や機会を意図的・計画的に設定し、「岡山型PBL(Project Based Learning)」に取り組むことで、児童生徒が自らやってみたいと思える「夢」や「なりたい自分」を見付け、生涯にわたって自ら学び続けることができる力を育成します。

本ガイドブックは、県内の小・中学校において、児童生徒が地域の多様な「人・もの・こと」と関わりながら、主体的かつ探究的に学ぶための学習方法をまとめたものです。各学校の実態に応じて、本ガイドブックを活用しながら、学びを「一歩先へ!」と進めていただきたいと考えています。



# 地域社会とのつながりの中で課題解決型学習に取り組んだ学校等の声

## 児童生徒の学び方が変わる!



### 【児童の声】

地域の方に質問したり、自分たちの考えを聞いてもらったりすることで、勉強していることについて、もっと知りたいと思うようになりました。



### 【生徒の声】

企業の方と意見のやり取りを行うことで、今まで考えていなかった視点に気付くことができ、課題解決に向けてさらに自分たちの取組を工夫することができました。

## 教師の考え方が変わる!



### 【教師の声】

地域に出て学習する活動が思うように進まなかったり、失敗したりしても、そこから新しい課題を見付け取り組んでいる子どもたちの姿から、柔軟に計画を修正してもよいのだなと思うようになりました。

## 地域の方の関わり方が変わる!



### 【地域の方の声】

子どもたちの活動をただお手伝いすればよいと思っていただけ、子どもたちの力を学校と一緒に育てるという視点を意識しながら子どもたちに関わるようになりました。

# 本冊子の活用例

本冊子では「岡山型PBL」の基本的な考え方や実践事例を紹介しています。最初から順に読み進めて内容を理解するだけでなく、目的に応じて必要な部分を活用することもできます。取組の改善に向けて、本冊子を活用してください。

## 「教師一人ひとり」が授業改善に活用する

昨年度の教科等における指導の実施状況の記録や計画を準備する。

今年度の取組の課題や、残されている改善点等について確認する。

確認した課題や改善点を解消するに当たり、参考となる本冊子の該当ページを見る。

冊子と比較した上で、今年度の授業改善につなげる計画を立てる。

## 「児童生徒」が学習方法の改善に活用する

児童生徒に目的に応じたまとめ方や表現方法になっているかどうかを確認させる。

本冊子p.23-24の内容を児童生徒と共有する。

「誰に」「どのような方法で」伝えたいのかという視点で、児童生徒とともに見直す。

児童生徒に目的や伝える対象に応じた表現方法を決定させ、振り返りの充実につなげる。

## 「担当者」(総合的な学習の時間等)や「研究主任等」が校内研修に活用する

総合的な学習の時間等において指導に困難さを抱えている学習過程を抽出する。

抽出した学習過程ごとに、本冊子の該当箇所を参考に、グループで課題解決策を考える。

考えた課題解決策を基にして、今後の取組の留意点等を話し合う。

留意点等をまとめ、学年及び学校全体の年間指導計画を修正・改善する。

## 「管理職」が教師の意識改革に活用する

学校の目指す子ども像に基づき、児童生徒に付けさせたい資質・能力を管理職が提案する。

本冊子p.1-4等を用いて、教師の意識を揃えるキーワードを全教師で作成し、共有する。

共有したキーワードを基に、児童生徒主体の授業や行事等を学校全体で実践する。

キーワードに照らして、教師同士で実践を振り返る場を設け、教師の意識が実態として揃っているか確認する。

# 目次

---

## はじめに

## 本冊子の活用例

### I 岡山型PBLの考え方

- 1 なぜ今PBLを進めようとしているのか p.1
- 2 岡山型PBLとは p.2
- 3 岡山型PBLの活かし方 p.5

### II 岡山型PBLの進め方

- 1 事前に取り組むこと p.7

- ・学校教育目標・目指す子ども像を確認する
- ・身に付けさせたい資質・能力を共有する 実践例「資質・能力を具体化・可視化」

- 2 学習過程において教師が意識すること p.9

- ・課題の設定 実践例「外部講師の話を踏まえた課題設定」等
- ・情報の収集 実践例「対象を絞ったアンケート調査」  
実践例「コミュニティ・スクールと連動した組織体制づくり」等
- ・整理・分析 実践例「フィッシュボーン図を使った整理」等
- ・まとめ・表現 実践例「まとめ・表現の方法を自己決定」等
- ・振り返り 実践例「評価規準表の作成と共有」等

- 3 改善に向けて取り組むこと p.27

- ・資質・能力を育成できたか検証する
- ・年間指導計画を改善する

# I 岡山型PBLの考え方

## 1 なぜ今PBLを進めようとしているのか

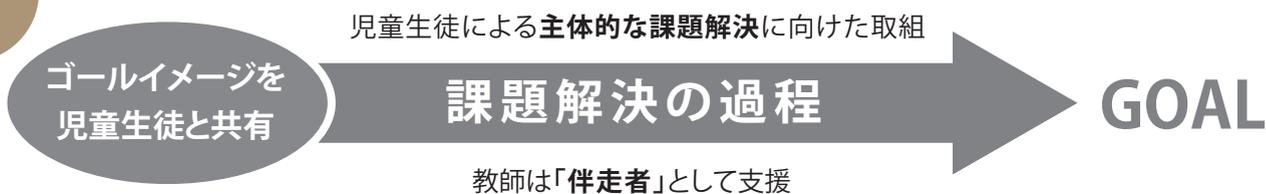
児童生徒一人ひとりが自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越えて持続可能な世界の創り手となるための力を身に付けることが求められており、その力を養うための学習方法の一つとして「PBL」があります。

### PBL(Project Based Learning)とは

児童生徒が、自ら課題を見付け、その課題を自ら解決する過程を通して、課題解決に必要な資質・能力を身に付ける学習方法のことで、「課題解決型学習」ともいわれます。

PBLに取り組むに当たって教師に求められることは、学びの「ゴールイメージ」を児童生徒と共有した上で、課題解決の過程において、時には導き、時には裏方に徹しながら児童生徒が夢中になって課題と対峙する姿を支える「伴走者」としての役割です。

単元



### 現在取り組んでいる日々の実践をPBLとして位置づける視点

- 児童生徒と共有したゴールイメージに向けた授業観を言語化して表現し、どの場面で児童生徒に学びを委ねるかなど、教師の意識を揃える。
- 各教師の専門性や特性が発揮できるよう、必要に応じて教科や学年を超えた校内体制を整備する。



児童生徒主体の取組を進めている学校では、教師の意識を揃えるために独自のキーフレーズを決め、それを校内組織で取り組む際の共通言語にしているよ。

興味・関心と出会う場面を用意しているか

「授業が変われば子どもが変わる」

「直線型授業から複線型の授業へ」

「素振りだけでなく試合をさせよう」

### 校内体制整備「推進委員会の創設」

校長	学年主任	地域連携担当
副校長	研究主任	児童会・生徒会担当
教頭	進路指導主事	総合的な学習の時間担当
教務主任	生徒指導主事	



## 2 岡山型PBLとは

### 岡 山 型

自己決定の場を設ける

振り返りを重視する

地域の多様な「人・もの・こと」と関わる



非認知能力の育成も意識

岡山型PBLとは、PBLの考え方を踏まえ、学習内容に応じて上記の3点を大切にするとともに、「夢育」で重視している非認知能力の育成も意識しながら、各教科等や総合的な学習の時間、特別活動の目標に示す資質・能力を身に付ける学習方法です。

岡山型PBLは、児童生徒が地域の多様な「人・もの・こと」と関わりながら主体的かつ探究的に学ぶことを意図して導入を進めるもので、岡山型PBLに取り組むことが目的とならないようにすることが大切だよ。



### 非認知能力とは

非認知能力とは、知識や技能など、テストや検査で点数化できる力（認知能力）の基となる、意欲や忍耐力、コミュニケーション力等の点数では表しにくい力のことを指します。

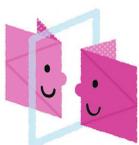
岡山県では認知能力の土台となる非認知能力を就学前から体験・経験を通じて育て、非認知能力を「自分を高める力」「自分と向き合う力」「他者とつながる力」「地域とつながる力」という4つに整理しています。



自分を高める力

#### 自分を高める力

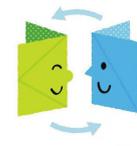
これからの自分を向上させていくために必要な意欲や自信、向上心等



自分と向き合う力

#### 自分と向き合う力

今の自分を維持・コントロールするために必要な自制心や忍耐力、レジリエンス等



他者とつながる力

#### 他者とつながる力

他者と協調・協働するために必要な共感性や協調性、コミュニケーション力等



地域とつながる力

#### 地域とつながる力

よりよい地域づくりに参画するための郷土愛や貢献意識、創造性等

学校が掲げる教育目標や校訓にも見られる「やさしい心」や「あきらめない心」などは、まさに非認知能力と言えます。この力を伸ばすためには、児童生徒自身が自分の置かれている状況で、どのような言動をとることが望ましいのかを意識できるようにする「仕掛け」と「価値付け」が必須となります。

そのために教師は、体験や学習のプロセスの中で見出した価値を児童生徒が認識できるような振り返りの時間を設定して適切にフィードバックしたり、児童生徒が非認知能力をイメージできる具体的な姿で共有したりすることが考えられます。



まずは  
ここから

非認知能力を具体的に示し、それに基づいた児童生徒の行動を見取り、フィードバックしましょう。

# I 岡山型PBLの考え方

## 自己決定の場を設ける

自分の将来を考えたり、直面した課題を乗り越えたりするためには、考える力・判断する力・決める力などが必要です。これらの力を育むためには、発達段階に応じて、他者と協働しながら自己決定する経験を積み重ねることが大切であり、自己決定する経験を通して、意欲や自制心、忍耐力といった非認知能力が育成され、夢や目標の実現に向けて学ぶ意欲の向上につながると考えます。

本冊子では、自己決定を「自分の考えに基づいて選択や決定の判断をすること」と定義し、与えられた選択肢の中から決めることなども含めています。

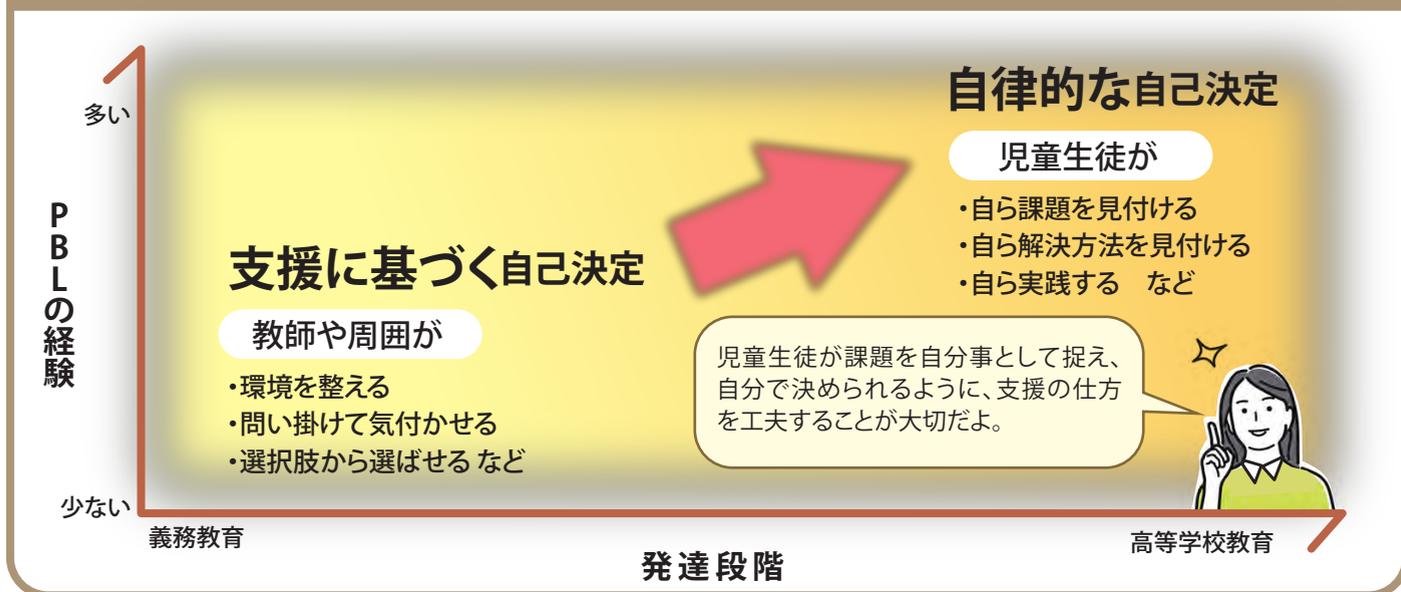


自己決定をどのようにさせたらよいのかな。

問い掛けて課題に気付かせたり、解決手段の選択肢を与えて選ばせたりするなど、児童生徒の実態に応じた支援を行っていくことが考えられるよ。



## 発達段階や教科等の学習におけるPBLの経験に応じた自己決定のイメージ



授業において、ある問題に対して複数の解決方法を考えさせ、学級内で共有を図る授業づくりが進んでいますが、「自己決定」によって学びを「一歩先へ!」進めることにつながります。

例えば、環境問題を解決する手立てについて調べる学習活動において、1人1台端末を活用して検索する児童生徒がいれば、図書室の本で調べる児童生徒もいるなど、学び方を自分で決めるという場を設定することが考えられます。また、数学の証明問題を解く際に、必要な生徒は穴埋め形式のワークシートを選択できるようにすることも考えられます。

学びを  
一歩先へ



まずは  
ここから

自己選択できる課題を準備するなど、児童生徒が自らの実態に応じて自分で決定できる場を設けましょう。

## 振り返りを重視する

児童生徒がゴールイメージを意識した振り返りをを行うと、そのゴールに対して「どこまでできたのか」「どのくらい力を伸ばせたのか」を自覚することができ、「もっとこうしたい」「次はこれに挑戦したい」といった、次の学びに向けた意欲を育むことにつながります。

### 振り返りのポイント

- ・児童生徒にゴールイメージを意識させ、自分の成長を自覚させる。
- ・児童生徒の活動の過程の中で、必要に応じて取組を価値付ける仕掛けを設定する。
- ・友達や保護者・地域の方からのフィードバック場面を設けて、新たな気づきを促す。
- ・学習活動全体の振り返りから、次の課題やテーマを設定できるようにする。

<ワークシート例>

運動会を夢へのパワーにつなげよう!

●特に伸ばしたいパワーは何かな?

やり抜く力

つながる力

挑戦する力

●自分の課題は何かな?

●運動会を終えて、どんなことができたかな?

●どんなパワーを伸ばすことができたかな?

●学校生活や学習に生かせることは何かな?



自分の成長を自覚することができると、自分のよさや可能性に気づき、今の学びを自己の生き方につなげて考えることができるようになるよ。

キャリア形成につながるね。キャリア・パスポート等と関連させることができそうだね。



まずは  
ここから

今の自分の学習が次の学習や将来の生き方につながるように、自分の内面を見つめる視点を意識させましょう。

## 地域の多様な「人・もの・こと」と関わる

地域の多様な「人・もの・こと」と関わり、児童生徒は学習内容と自分の生活とのつながりを感じやすく、自分の住む地域をよりよくするという視点で学習に取り組むことで、課題を自分事として捉えやすくなり、より主体的な学習につなげることができます。

また、地域の多様な「人・もの・こと」と関わる学習過程において、児童生徒がやってみたいと思える夢や、なりたいたいと思える自分を見付け、その実現に向かって挑戦していく経験を学校種を超えて繰り返すことで、郷土愛や地域貢献意識を育むことにもつながると考えられます。



まずは  
ここから

地域の多様な「人・もの・こと」を、積極的に学習過程に取り入れるカリキュラム・マネジメントを行いましょう。

# I 岡山型PBLの考え方

## 3 岡山型PBLの活かし方

岡山型PBLで大切にしている「自己決定の場を設ける」「振り返りを重視する」「地域の多様な『人・もの・こと』と関わる」は、学校教育のあらゆる場面で取り入れることができ、その場面ごとに例を紹介いたします。

### 学校行事での例：中学校の合唱祭

合唱祭を通して身に付けさせたい資質・能力を、事前に児童生徒と共有し、感想等の振り返りで終わるのではなく、資質・能力に基づいた視点で児童生徒自身が振り返ることができるようにします。



合唱祭に向けての練習を通して、どのような力を付けたいですか？

行事前

私は粘り強く取り組むことが苦手なので、うまくいかないことがあっても「あきらめない力」を付けたいな。

自己決定

美しいハーモニーを響かせるためにも、クラスの友達と心を合わせて「他者とつながる力」を付けたいな。

練習中



音程が合っていない気がする。どうしたらよいか。



全体で合わせた歌声はまとまってきたよ。表情もよくしていこうよ！

行事後

本番に向けてどんな力が付いたか振り返りましょう。  
○○さんは、あきらめずに「自分と向き合う」ことができたんだね！

振り返り



※小学校低学年の場合などは、身に付けさせたい資質・能力を教師が示すことも考えられます。

### 教科での例：小学校社会科

自分が頑張りたいこと、自らやってみたいと思えることを引き出し、伴走者として課題解決に寄り添います。課題解決の過程で、機会に応じて地域との関わりを設定するようにします。



寒い地域に住む上での様々な工夫を北海道でしていたけれど、みんなの家ではどうかな。

伴走者としての  
教師の役割

- ・ゴールイメージの共有
- ・調べ方を決める場の設定等

北海道では、落雪に備えた屋根あったけれど、我が家は三角屋根だよ。



私の家も隣の家にも、太陽光パネルが付いているよ。

地域のもの

岡山は「晴れの国」だからかな。暖かい沖縄も同じかな。



お互いの発表を聞いて、どんなことに気付いたかな？

岡山と沖縄は、どちらも暖かいけれど、生活の工夫はちがうことが分かりました。雨の降り方が関係しているのかな。



沖縄の生活の工夫について調べて、岡山と比べてみるよ。

自己決定

私は東北地方に住む祖父に話を聞いて、我が家の工夫との違いを見付けようかな。



特色を生かしているところは共通しているね。桃やぶどうの栽培は、岡山の気候とどんな関係があるのか、地元の農家の人に聞いてみたいな。

地域の人

## 総合的な学習の時間での例

児童生徒が自ら課題を設定し、その課題を自ら解決していく活動を通して、身に付けさせたい資質・能力を育成します。また、学習過程において自己調整しながら取り組み、自分にどのような力が付いたか振り返ることができるようにします。

岡山型PBLの考え方を取り入れて充実させる学習過程について、以下の流れに沿って次ページ以降で説明します。

### 1 事前に取り組むこと

学校教育目標・目指す子ども像を確認する

身に付けさせたい資質・能力を共有する

#### ①非認知能力の育成を意識する

「自分を高める力」  
「自分と向き合う力」を意識する。  
「他者とつながる力」  
「地域とつながる力」

### 2 学習過程において教師が意識すること

課題の設定

情報の収集

整理・分析

まとめ・表現

振り返り

#### ②地域の多様な「人・もの・こと」と関わる

地域の人や身近な企業、地域に根ざしたもの・ことと関連付けられるよう意識する。

#### ③自己決定の場を設定する

児童生徒が見通しをもつために、教師は伴走者として関わる。自分の考えに基づいて選択や決定ができるような問い掛けを意識する。

#### ④振り返りを重視する

学習過程の中で自己調整できるように児童生徒の言動を価値付ける。まとめ・表現の後に、設定した資質・能力を振り返る。今の自分の学習が次の学習や将来の生き方につながるように、自分の内面を見つめさせる。

※ 岡山型PBLの学習過程の基本型を示しています。活動のねらいや特性によっては、順番が前後したり、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して行われたりする場合もあります。この学習過程が繰り返されて、学びを段階的に発展させることが大切です。

### 3 改善に向けて取り組むこと

資質・能力を育成できたか検証する

年間指導計画を改善する

# II 岡山型PBLの進め方

## 1 事前に取り組むこと

学校教育目標を基に設定した身に付けさせたい資質・能力を、教師同士や児童生徒、地域で共有しながら取組を進めることで、学ぶ目的が明確になります。

学校教育目標・目指す  
子ども像を確認する



学校の目指す子ども像は学校経営計画に示してあるよ。  
(例)「心豊かな子 たくましい子 郷土を愛する子」  
これを理解するだけでよいのかな。

身に付けさせたい資質・  
能力を共有する

子ども像は抽象的で伝わりにくい場合があるので、  
児童生徒にどんな資質・能力を身に付けさせたいかを  
具体的にすると、共有しやすくなるよ。



心豊かな子

たくましい子

郷土を愛する子

- ・他者の思いを理解し、つながる力
- ・自分の生き方を振り返り、将来を考える力
- ・多様な意見を認め、協働しようとする態度

- ・自分と向き合い、粘り強く取り組む力
- ・自分を高めて、前に進む力
- ・新たな状況にも主体的に対応していこうとする態度

- ・郷土の歴史・伝統・文化を理解する力
- ・よりよい地域づくりに参画・貢献し、地域とつながろうとする態度



これなら共有しやすいね。教師も地域の方も同じ視点で児童生徒を見取り、必要な声掛けができるね。

児童生徒自身も自分の成長を実感できれば、  
学ぶ意義を感じられるのではないかな。



### ここが岡山型PBL!

- ・学校が身に付けさせたい資質・能力や非認知能力を、児童生徒自身が意識できるような具体化・可視化の工夫をします。
- ・取組の前後に「どんな力を伸ばしたいか」「どんなことができるようになったのか」を児童生徒に考えさせるなどして、振り返りを充実させます。
- ・学校が身に付けさせたい資質・能力を地域の方と事前に共有することによって、地域の方からの声掛けが、より強固な価値付けとなります。

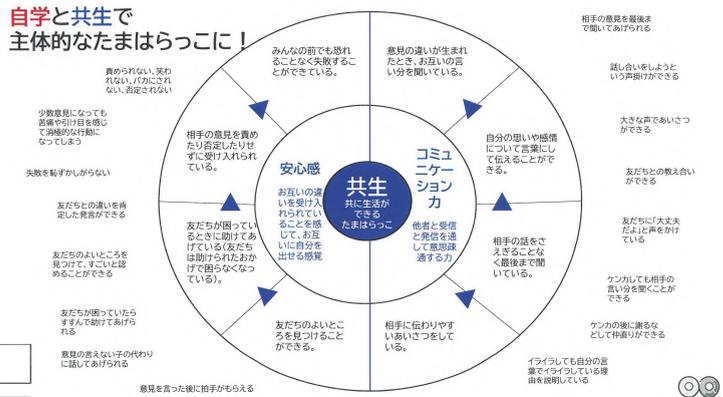
## 岡山県内の実践例「資質・能力を具体化・可視化」

玉野市立玉原小学校では、学校教育目標を基に児童に身に付けさせたい資質・能力を具体化・可視化し、指導の充実につなげています。

### 【校内研修の流れ】

- ①身に付けさせたい資質・能力のキーワードをアイデアーナツ(図1)を使って出し合う。
- ②グループに分かれて、資質・能力をレベル1～4の規準表(図2)に整理する。

自学と共生で  
主体的なたまはらっこに！



(図1) アイデアーナツ

### 自学と共生で主体的なたまはらっこ

自学 自ら学ぶことができるたまはらっこ		共生 共に生活ができるたまはらっこ	
意欲	忍耐	安心感	コミュニケーション力
自分からすすんで何かをしようとする意志	やりたくないことでも耐え忍ぼうとする意志	お互いの違いを受け入れられていることを感じ、お互いに自分を出せる感覚	他者と受信と発信を通して意思疎通する力
レベル4 自分のやりたいことを次々と増やしていこうとしている。	やりたくないことを自分で最後までやり続けようとしている。	みんなの前でも恐れなく失敗することができている。	意見の違いが生まれたとき、お互いの言い分を聞いている。
レベル3 自分がやってみたことをさらに改善しようとしている。	やりたくないことをこちからのサポートがあれば続けようとしている。	相手の意見を責めたり否定したりせずに受け入れられている。	自分の思いや感情について言葉にして伝えることができる。
レベル2 自分のやりたいことを実際にやってみようとしている。	やりたくないことでもまずはやってみようとしている(続けなくてもよい)。	友だちが困っているときに助けてあげている。	相手の話をさえぎることなく最後まで聞いている。
レベル1 自分のやりたいという気持ちを持っている(なんでもよい)。	いやなことをはっきりといやなことだと言葉にしている(やらなくてよい)。	友だちのよいところを見つけることができる。	相手に伝わりやすいあいさつをしている。

(図2) 規準表

- ③整理した規準を踏まえた児童の具体的な姿を、写真やキーワード等で可視化し、教室や廊下に掲示する。



これなら、児童や地域の方と共有しやすいね。



学校教育目標を具体化した資質・能力を、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価の観点に整理することで、教科等での指導と評価の充実につなげやすくなります。

# II 岡山型PBLの進め方

## 2 学習過程において教師が意識すること



左図は、岡山型PBLの学習過程の基本型です。活動のねらいや特性によっては、順番が前後したり、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して行われたりする場合もあり、必ずしもこの流れに沿う必要はありません。

大切なことは、この学習過程を繰り返しながら、学びを段階的に発展させることです。

### 課題の設定

体験的な活動を設定することで、児童生徒自身のこれまでの考えとのずれや隔たり、可能性を感じられ、より主体的に課題を設定することができます。



年間指導計画通りに進めようとする、教師主導で課題を設定することになりそうなんだ。児童生徒が主体的に課題を設定するには、どうしたらよいらう。

単元が「地域を知る」だとしたら、まずは地域に関わる「問い」が持てるような場の設定が考えられるね。  
例えば、地域の方から話を聞いたり、実際に地域に出かけたりするなど、まず体験活動を取り入れてみてはどうか。



#### 児童生徒の活動

#### 教師の視点例

#### 教師の問い掛け例

① 地域に関わる体験活動（外部講師の話等）に取り組む。	■ 地域に対する、これまでの児童生徒の考えとのずれや隔たり、憧れや可能性を感じさせているかどうか。	・「印象に残っていることは何かな。」 ・「困っている人はいないだろうか。」 ・「最後にどうなるとよいらう。」
② 問題解決に向けて課題を設定する。	■ 相手意識・目的意識が明確で、解決可能な課題となっているかどうか。	・「何が問題なのかな。」 ・「誰のためになるのかな。」 ・「実現したらどうなるのかな。」
③ 課題解決に向けた見通しをもつ。	■ 課題の解決方法や手順を考える機会を設定し、自己決定させているかどうか。	・「何ができたらよいのかな。」 ・「解決方法や確かめる方法はどうすればよいか。」 ・「誰に協力してもらえるかな。」



「体験活動を通して、どのようなことを考えたか」を、教師が児童生徒に自覚させるような問い掛けが大事なんだね。

### ここが岡山型PBL!

- ・地域の多様な「人・もの・こと」との関わりを意識させることで、児童生徒が学習内容と自分の生活とのつながりを感じやすく、課題を自分事として捉えやすくなり、より主体的な学習になります。
- ・自己決定の場として、児童生徒が課題解決方法や手順を考える機会を設けることで、見通しが持てるようになります。

## 岡山県内の実践例「課題の設定」

### ■外部講師の話を踏まえた課題設定

玉野市立大崎小学校4年生は、児島湖の環境について学びました。ゲストティーチャーを招いて水質調査を行うなど、外部講師を活用した体験活動から問いを引き出し、課題設定につなげています。

#### 講師の話

#### 「県の担当者で行う体験活動」



(ゲストティーチャー)

- ・児島湖は、ダムを除くと世界で2番目に大きな人造湖で、ウナギやテナガエビなど多くの生き物が住んでいます。
- ・外来生物や水質汚染などが問題になっています。

#### 問いを引き出す過程



県の担当者の話を聞いて、印象に残ったことは何かな。

たくさんの生き物が住んでいるところです。



問

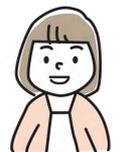
児島湖の水が汚れていると聞いて心配になったよ。どれくらい汚れているのかな。

#### 水質調査の実践



実際に水質を調べてみてどう思ったかな。

- ・意識して児島湖の水を見てみると、濁っていることが分かりました。
- ・水をきれいにすることはたらしきをもつ植物があるって聞いたことがあるよ。



問

どうしてこんなに汚れているんだろうと思ったよ。児島湖の水はどこから流れてきているのかな。

#### 課題

「どうやったら児島湖の水質を改善できるか考えよう」



外部講師の話をきっかけにして、自分たちの住んでいる地域を改めて見直そうとしているね。教師の問い掛けから体験を振り返ることで、児童生徒が問いを立てることができているね。

# II 岡山型PBLの進め方

## 岡山県内の実践例「課題の設定」

### ■昨年度までの取組を踏まえた課題設定

井原市立県主小学校5年生は、地域課題を解決する取組を行いました。昨年度までの取組について意見を出し合い、さらに発展させるための問いを教師が引き出すことで課題設定につなげています。

昨年度の取組み

#### 「取組の成果と課題を情報共有」



去年の5年生は、県主のよさを知ってもらって取組を進めました。その結果、県主に来る人は増えたかな。

知ってもらったかもしれないけれど、来る人は増えた気がしないね。



問いを引き出す過程

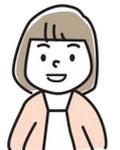
問

どうして県主に来てくれる人があまり増えていないのかな。



県主のために、みんなはどんな取組をしたいですか。

知ってもらっただけじゃなく、いろいろな世代の人に県主に来てもらうための取組をしたいな。何ができるかな。



大きな課題

若い世代の人が県主に来たくなるような新名物を作ろう。



新名物といっても、どんなものが求められているのかよくわからないよ。

・高校生にアンケートをとって、そこから考えようよ。  
・地域の人にも協力してもらいたいな。アンケートをもとに計画を考えて、それを聞いてもらおうよ。



課題

「若い世代を県主に呼ぶための計画を地域の方に伝えよう」



昨年度の取組を振り返ることで、課題意識をもちやすくなるね。期間や内容の実現の可能性を考えると解決困難な「大きな課題」が出る場合もあるため、スモールステップで取組が進められるように支援することが必要だね。

■地域でのフィールドワークから課題設定

真庭市立湯原中学校 1 年生は、湯原の魅力を発信する取組を行いました。地域のオオサンショウウオ保護センターや温泉ミュージアム等の施設を訪問し、湯原の自然等について理解を深めることで、課題設定につなげています。

「フィールドワーク(オオサンショウウオ保護センター)」



体験活動



湯原の魅力には  
どんなものがあるかな。

- ・オオサンショウウオが有名です。
- ・温泉や豊かな森も魅力だと思います。



昔から地元の小学校を中心に「はんざき(オオサンショウウオ)」の生態研究が行われていました。大はんざき退治の伝説が、今のはんざき祭りにつながっています。

問いを引き出す過程



フィールドワークをして、どんなことを感じたかな。

誰に、どんな魅力を伝えたいかな。話し合ってみよう。

知らなかったことがたくさんありました。

湯原の魅力を多くの方に知ってもらいたくなりました。



問 湯原の魅力を、誰に伝えるのがよいかな。

問 すでに知られていることに付け加える情報は何かな。

やっぱり観光客かな。何度も来てもらって 湯原の活性化につなげたいな。

温泉地のお土産情報はどうか。



温泉紹介に、お得な情報を付け加えたらいいんじゃないかな。

きれいな川での癒やしや、そこに住む生き物紹介も良いかも。

課題

「観光客に湯原温泉のお土産情報を伝えよう」

「湯原の清流に生息するニジマスをもっと広めよう」



話し合いを焦点化するための教師の問い掛けによって、生徒同士が主体的に課題を設定できるように工夫しているね。

# II 岡山型PBLの進め方

## 情報の収集

情報収集の方法には、それぞれ特徴があります。児童生徒の知識量等を踏まえた支援が必要です。



情報の収集場面では、インターネットの情報や書籍の一部を書き写して終わってしまうことが多いなあ・・・。

「何のために」「どのような情報が必要なのか」、情報収集の目的を意識できるような教師の声掛けが重要だよ。



### 児童生徒の活動

### 教師の視点例

### 教師の問い掛け例

①情報収集の準備をする。	■情報収集の目的や内容が明確になっているかどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何のために情報を集めるのかな。」</li> <li>・「どうやって調べるのかな。」</li> <li>・「他に必要な情報はああるかな。」</li> </ul>
②情報収集する。	■目的に応じて情報を適切に収集・蓄積できているかどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「体験してみてどう思ったかな。」</li> <li>・「情報はどれだけ正確かな。」</li> <li>・「目的に応じた十分な情報かな。」</li> <li>・「どのように記録しておくかと後で便利かな。」</li> </ul>



情報収集の方法にも、それぞれ特徴があるね。課題解決に向けて必要な情報は何か、どの方法を選択し、どの順番で行うかは、児童生徒が決められるよう、教師の支援が必要だね。



### 本

(学校図書館等)

あるテーマについて、全体像をつかむことができます。

必要な資料を見付けるのに時間がかかることがあるので、学校司書等の協力を得ることが考えられます。そのためには、学習過程や活動のねらいを学校司書等と共通理解しておくことが必要です。



### インターネット

(パソコン)

キーワードを基に焦点化した情報を収集することができます。

情報収集する際に注意したいことは、信頼できる情報かどうかを見極めることです。情報の真贋を判断するために、情報の発信者を確認したり、複数のサイトを比較したりすることが必要です。



### 専門家

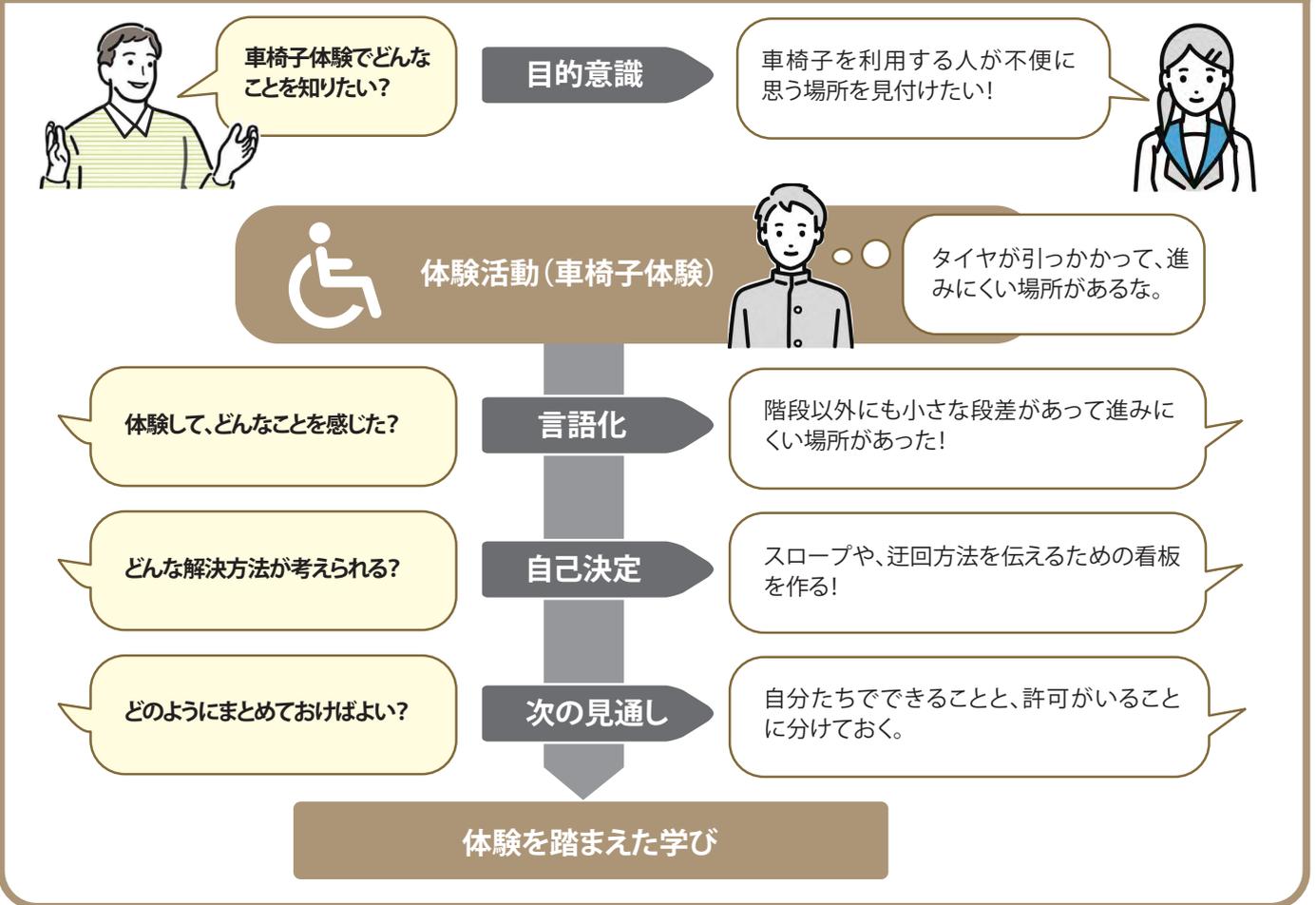
(インタビュー)

自分が知りたいことを直接やり取りしながら情報収集することができます。インタビューが受け身にならないように、事前に情報収集し、自分の考えをもってからインタビューをすることが必要です。

体験活動を通して情報収集することも考えられるね。  
体験したことを「整理・分析」につなげるためには、児童生徒にどんなことを意識させればよいのかな。

児童生徒は、体験することに一生懸命になりがちで、体験から収集した情報を自覚しにくいのではないかな。  
教師の意図的な問い掛けが必要になってくるね。

【教師の問い掛け例】



情報収集するときに、記録の蓄積方法を工夫しておくことで整理・分析がしやすいよ。

記録の蓄積方法		
情報収集の方法	記録方法	蓄積方法例
インターネットや書籍等	参考資料として記録する	ポートフォリオ
インタビューやアンケート調査等	数値をデータ化する	表やグラフ
体験活動等	感情を言語化する	ワークシート

ここが岡山型PBL!

課題解決に向け、どのように情報収集するかを自己決定できるようにします。一度調べて終わりではなく、集めた情報が目的に合っているかどうかを児童生徒同士で確認させながら取り組ませるようにします。ファイリングやリスト化といった方法も効果的です。

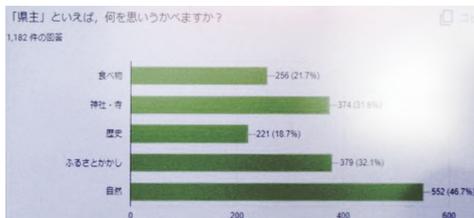
# II 岡山型PBLの進め方

## 岡山県内の実践例「情報の収集」

井原市立県主小学校の5年生は、「よさを知ったうえで、県主に来てもらいたい。」と考え、どのような取組を行うか見通しを立てるためにアンケート調査や意見収集を行いました。

### ■対象を絞ったアンケート調査

5年生みんなで話し合い、県主に来てほしい対象年齢を10代に設定しました。そこで、県主の印象について、市内の高校生にアンケート調査を行いました。



質問：「県主」といえば何を思い浮かべますか？

回答からは「自然」が多いことが分かるね。

「食べ物」と答えている人も多いよ。

スイーツとかの「名物になる食べ物」があれば、10代の人に来てくれるんじゃないかな。

### ■地域の方を招いて意見収集

アンケート結果を踏まえた自分たちの計画を地域の方に伝え、どのように進めることができるかについて意見交換会を行いました。教師は、授業のねらいなどについて地域の方と事前打合せをしています。



#### 事前打合せ

(ゲストティーチャー) お金のことや、法律のことについて触れてもよいのですか？

実現するためには必要なことですので、問題点を指摘してもらって構いません。



#### 意見交換会

(ゲストティーチャー) 「食べ物」を売るためにはいろいろな決まりがあるよ。

(ゲストティーチャー) 朝市をするのはよいけれど、何をどのくらい売るのがかな。

## ゲストティーチャーを招く際のポイント

- ・ゲストティーチャーと教師で事前に児童生徒に付けたい力を再度確認し、活動のねらいを共通理解しておく。
- ・児童生徒が事前に集めた情報を基に、直接聞いてみたいことや仮説を立てたことについて質問できるようにしておく。
- ・質疑の時間を設け、児童生徒が足りない情報を主体的に収集できるようにする。

## 岡山県内の実践例「地域や企業との連携」

地域や企業と連携した取組を進めるためには、学校が直接連絡するほかに、コミュニティ・スクール(以下「CS」)や行政を介して連携することも考えられます。

### ■対象を絞ったアンケート調査

浅口市立寄島小学校は、学校や地域の課題解決に向けた取組を組織的に実施するため、CSと連動した組織体制を構築しています。

CSで協議した「共有目標」の実現に向け、校内プロジェクトチームで、外部人材を活用した学習の年間計画(図3)を作成しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
<b>CS関係</b>			・第1回学校運営協議会 ・第1回部会	・トレーニングコース 下見①(地域ボラ) ・町づくり打合せ② (室先生・CS)	・CS部運作り③(CN)	・山学打ち合わせ④	・第2回学校運営協議会
<b>体験活動 地域活動</b>			・みこけ隊1回目⑤ (メンバー・地域ボラ) ・夏GAKUサブリ 寺子屋⑥(地域ボラ・保護者)海で遊ぶ⑦ (あそぶところ・地域ボラ)	・スポーツチーム⑧ (サッカー) ・海チーム⑨(たき火と カヤックin三原) ・物作りチーム⑩(話し 合い)(メンバー・地域ボラ)			
<b>全校</b>	・見守りパトロール (年間)(みるみる ウォーク)	・あいさつ運動 (民生委員)	・水難事故防止講座 (くらし安全課・環 未) ・読み聞かせ⑪⑫				・たいこボラ⑬(表 現クラブ)(葉王太鼓・三 宅さん)
<b>他校種</b>	・授業観察(年間月A M)(寄中教諭)			・夏GAKUサブリ 寺子屋⑭(中学生)			・小中プロジェクト会 議⑮
<b>1年</b>			・アサガク防犯教室 ⑯⑰(みるみる ウォーク) ・青佐島海岸(園工 ⑱)(地域ボラ)	・海辺で水遊び⑲(地 域ボラ・保護者)			・生き物を探そう⑳青 佐⑱(地域ボラ) ・計算カード㉑(地域 ボラ)
			・漁協へ⑳(漁協・地 域ボラ) ・寄島図書館㉒(東郷 さん・地域ボラ)	・海辺で水遊び㉓(地 域ボラ・保護者)		・町探検(地域ボラ)	・芋ほり㉔(地域ボ ラ)



発達段階に応じて、いつ、どのような外部人材と協働するか計画を立てておくと、地域と協働しながら一体的かつ系統的に身に付けさせたい力を育成することができるね。

(図3) 外部人材・地域学校協働活動年間計画

### ■企業リストの活用

玉野市教育委員会は、企業見学等の、学校と企業との連携に向けた支援を積極的に行っています。

玉野市立荘内中学校は、玉野市教育委員会と玉野市商工観光課が連携して作成した「たまのの企業ガイド」を活用して、企業との交流会を実施しています。

ICTを活用することで、オンラインでの交流も可能になります。



職場体験でお世話になった企業や市町村の部局と連携することによって、将来やってみたいと思える仕事や、なりたいたいと思える自分を生徒が見付けるきっかけになるかもしれないね。

# II 岡山型PBLの進め方

## 整理・分析

収集した情報を課題解決に活用する方法を、発達段階に応じて学ばせていく必要があります。



集めた情報を整理・分析するためによい方法はないかな。

発達段階に応じて、各教科等の見方・考え方を働かせたり、「考えるための技法」等を意識させたりすることが大切だよ。



### 児童生徒の活動

### 教師の視点例

### 教師の問い掛け例

①収集した情報を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じた情報が十分に集まっているか、各教科等の学びを生かすことができているかどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「課題解決に向けて情報は十分に集まっているかな。」</li> <li>「今までの学習とどのように関連しているかな。」</li> <li>「他教科の学びは使えないかな。」</li> </ul>
②情報を分析する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「考えるための技法」を基に、思考ツール等を活用して、思考を可視化できているかどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「共通していることは何かな。」</li> <li>「どんな関係があるかな。」</li> <li>「〇〇に理解してもらえるかな。」</li> </ul>

### 考えるための技法の例

比較

分類

具体化

構造化



「整理・分析」する上で、既習事項との関連を考えさせたり、集めた情報の共通点や差異点を見つけさせたりするよう、教師が児童生徒に必要な視点を与えるような問い掛けが大切だね。

## 【教師の問い掛け例】



働いている人にインタビューしたことをまとめよう。

知りたいのは仕事のことだけかな？

働く人に共通していることは？

### 情報の収集(将来の仕事)

整理

分析

仕事以外にも、プライベートの充実との関係も大切だと思う。インタビューできなかった方もいるから、もう一度聞いてみよう。



「考えるための技法」を使って分析すると、「人の役に立つ」という共通点が見えてきたよ。



将来を考えるための視点充実



# II 岡山型PBLの進め方

## 「整理・分析」を充実させるために

体験したことや収集した情報を羅列しても考えはまとまりません。「整理・分析」することで、課題解決に向けて自分の考えをまとめることができます。

児童生徒に「分析」とは何をすることなのか、具体的なイメージを持たせる必要があります。児童生徒に「考えるための技法」を意識的に活用させることで、未知の状況に対応できる思考力、判断力、表現力等を育成できます。



商店街のお店でインタビューをしてきました。集めた情報を新聞にまとめましょう。

「まとめましょう」では、具体的に何をしたらよいか見通しがもちにくいね。



【考えるための技法】

共通点・相違点を比較する。

【学習場面イメージ】



商店街のお店でインタビューをしてきました。集めた意見を比べて、同じ点と違う点を明らかにしましょう。

洋品店では「お客さんが減っている」、鮮魚店では「若い人が来なくなっている」と話されていたけれど、同じことなのかな？



相違点や共通点を可視化できる思考ツールがあったね。ベン図を使って比較したらどうかな？



【思考ツールの活用】

思考を可視化する方法として、「ベン図」などの思考ツールを活用することが考えられます。思考ツールを授業で用いる際に、教師が留意する点は2つあります。

- 思考ツールを活用すること自体を目的にしない
- 思考ツールを活用する場合は、例えば「比較するなら、ベン図を使用する」など、総合的な学習の時間だけでなくどの教科等においても同じものを使用する

これらに留意することで、児童生徒自身が「考えるための技法」を、教科等を越えて、意図的・汎用的に活用できるようになります。



「考えるための技法」(思考スキル)と思考ツールの具体例については、「教科等におけるICT活用事例集 STAGE3編」p.22-23を参照してください！



## 整理・分析のためのツール例

参考:「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」(令和3年,文部科学省)

### ■地図



集めた情報を量的、空間的に整理し、可視化でき、事実や傾向を捉えることができるね。



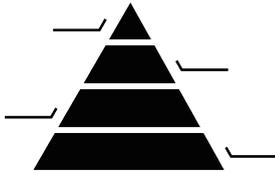
### ■グラフ



特徴を客観的、視覚的に捉えることに役立つよ。  
棒グラフの長さや折れ線グラフの変化などで、考えの根拠を伝えることができるよ。  
ヒストグラムの活用も効果的だね。



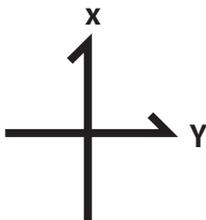
### ■ピラミッドチャート



収集した情報をピラミッドの上から下へ具体化しながら整理することで、類型や概念を構成している要素が明確になるよ。また、下から上に抽象化しながら整理することで、共通する性質や傾向、類型や概念をつくりだすことができるよ。



### ■座標軸



集めた情報の特徴を、複数の視点で整理し、それぞれの関係を可視化して捉えることができるね。



## ここが岡山型PBL!

- ・児童生徒が見通しをもち、整理・分析するための方法を自己決定できるようにします。
- ・課題を解決する上で、収集した情報が十分かどうか、分析結果が根拠となっているかどうか、学習過程の途中で振り返る場を設定します。
- ・「整理・分析」する際に、教科等の学びとの関連を意識させることで、PBLが教科等の学習意欲向上につながるるとともに、学ぶ意義を実感するきっかけになります。

### 活動中の問い掛け例

たくさん情報を集めたけれど十分かな?  
算数で習った資料の整理の仕方が使えないかな?



### 調べたことを中間報告する場の設定

今日の間接報告会では、グループで互いに質問し合います。答えられない質問があったときはどうしたらよいと思いますか?

# II 岡山型PBLの進め方

## まとめ・表現

整理・分析したことを自分の考えとしてまとめたり、他者に伝えたりする活動を通して、児童生徒自身の考えがより明らかになるとともに、新たな課題が生まれることにつながります。目的意識や相手意識を持って表現することで、より学びが深まっていきます。



年間指導計画通りのまとめ・表現方法を児童生徒に例示してもよいかな。

参考に示すことは考えられるよ。ただし、その通りにさせるのではなく、目的意識や相手意識を持たせ、「誰に」伝えるのか、「どのような方法で」まとめ・表現をすれば効果的かということを児童生徒自身が考え、自己決定できるように支援することが大切だよ。



### 児童生徒の活動

### 教師の視点例

### 教師の問い掛け例

①学習の成果をまとめる。

■何のためにまとめ、誰に伝えるのかを考え、まとめ方を児童生徒が自己決定しているかどうか。  
■教科等で身に付けた力を個別又は総合的に発揮できているかどうか。

・「何のための取組だったかな。」  
・「誰に聞いてもらうのかな。」  
・「どんなまとめ方が適切かな。」  
・「教科で身に付けたことを生かせないかな。」

②学習の成果を表現する。

■身近な地域の方や専門家等からフィードバックを受けるなど、実社会や実生活とのつながりを感じられるかどうか。

・「何を準備すればよいかな。」  
・「〇〇さんの意見を聞いてどう思ったかな。」  
・「次はどうしたらよいかな。」



まとめや表現の方法は一つではないからこそ、児童生徒が相手や目的に応じて論理的にまとめる力や表現する方法を身に付けるチャンスだね。引用元やデータの根拠が明記できているかなど、まとめを確認し合わせることで、自然に気付きが生まれ、児童生徒主体の学びが深まるね。

## ここが岡山型PBL!

まとめ・表現の方法についても、児童生徒が自己決定できるようにします。

その際、例えば自分たちの考えを行政に提言するなど、教師が躊躇してしまいそうなことを児童生徒が提案がすることがあります。このような場合に、初めからできないと拒絶するのではなく、「どのようにすれば実行可能か」を児童生徒が主体的に考えられるよう、地域人材や専門家への協力を依頼するなどの伴走支援を行います。結果としてできないことがあったとしても、試行錯誤しながら課題を解決しようとする過程が大切です。

## 岡山県内の実践例「まとめ・表現」

### ■まとめ・表現の方法を自己決定

真庭市立遷喬小学校3年生は、久世地域の魅力を多くの人に知ってもらうために、ポスターやパンフレット、顔はめパネル等、自分たちで決めた様々な方法で学習の成果をまとめました。



みんなが集めた情報は、どんな方法で伝えることができそうかな。

私たちはポスターにしたいな。



私たちの地域の魅力をちゃんと伝えたいね。



食べ物の写真を貼った方がいいんじゃないかな。

観光地に顔はめパネルを置こうよ。



図工の時間に勉強したことが生かせるね。

私たちの町の意外な情報も知ってもらおうよ。



表現方法を、目的や場所、相手によって、児童が選択しているんだね。選択できる場があることで、各教科等で身に付けた力を発揮しやすくなっているね。

### ■ものづくりによるまとめ・表現

早島町立早島中学校2年生は、魅力的な商品を自分たちで企画して、地域の企業関係者にプレゼンしました。選考に残った企画は、試作と改良を重ね、生徒主催のイベント等で実際に商品として販売します。

インスタ映えも狙った早島オリジナルプリンです。い草を原料にした緑色のソースがかかっています。

材料費や1個当たりの利益を踏まえて値段を設定しました。



中間プレゼンのときから改善が見られますね。

丸いプリンは面白いけど、形をちゃんと維持できるの？

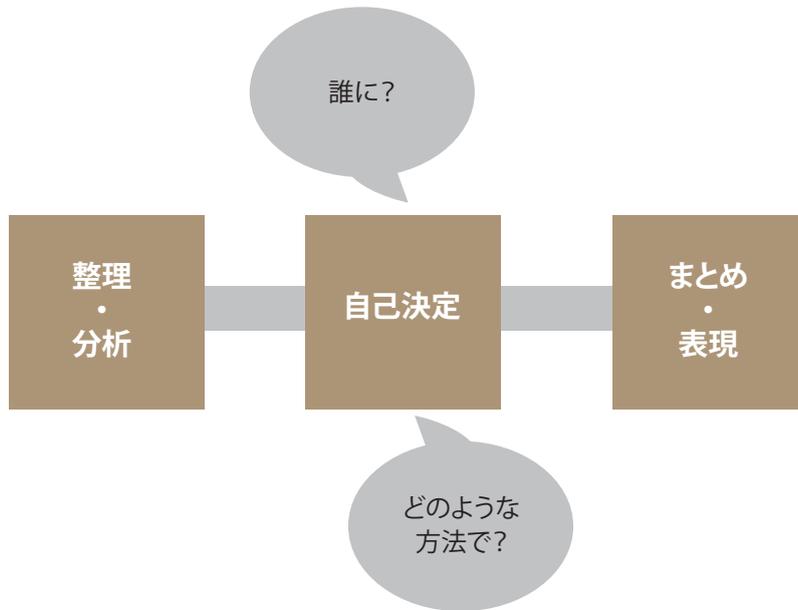


まとめ・表現の方法としてポスターやスライド発表にとどまらず、具体的なものづくりや実践を行うことで、課題解決に向けた活動ができているね。制作物に込めた思い等を振り返ることで、学習の価値に気付くことにつながるね。

# II 岡山型PBLの進め方

## 多様な相手と表現方法

活動の目的によって、誰に、どのような方法で発表するかが変わります。児童生徒が適切なまとめ方や表現方法を判断し、選択できるように支援しましょう。  
ここでは、多様な相手と表現方法の例を紹介します。



### 誰に

#### 学校

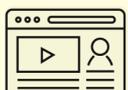
- 同じクラスの人に
- 違うクラスの人に
- 違う学年の人に
- 違う学校の同じ学年の人に
- 違う学校の違う学年の人に
- 違う学校種の人に
- 外国の人に

#### 地域

- 保護者に
- 地域の人に
- 専門家に
- 行政の人に
- 内容に興味がある一般の人に
- 内容に興味がない一般の人に

どのような方法で

参考:「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」(令和3年,文部科学省)

まとめ方・表現方法	具体的な例
<p>作文の発表</p> 	<p>国語科の書くことと関連させ、総合的な学習の時間の中で取り組んだ生き物調査の内容を、地域の方々にフォーラムで伝えるために、作文にまとめて発表する。</p>
<p>ICTを使った発信</p> 	<p>地域の魅力を紹介するWEBサイトを作成したり、商店街活性化のためのCMやショートムービーを作成して公開したりする。</p>
<p>パンフレット作成</p> 	<p>観光客に町のよさをPRしたり、地域住民に行動を働きかけたりするために、多様な情報を一目で分かりやすくしてパンフレットにまとめる。</p>
<p>ポスターセッション</p> 	<p>発表内容に関心をもっている聞き手に向けて発表し、必要に応じて実演や展示を効果的に組み合わせながら、質疑応答や意見交換を通して考えを深める。</p>
<p>シンポジウム</p> 	<p>発信者が決められたテーマについて提案し、その後、聴衆(参加者)が質問や意見を出し合い、新しい考えを発見する。</p>
<p>ものづくり</p> 	<p>料理や伝統工芸品、ロゴマーク等を具体的に製作することを通して創造性を発揮するとともに、表現の背景にある意図を整理する過程で、学習の意義や価値に気付くことにもつながる。</p>
<p>総合表現</p> 	<p>地域の歴史を伝える演劇や伝統芸能の伝承、地域活性化のためのPRムービー等、多様な表現方法を組み合わせることで、協働的に取り組む態度の形成や各教科等の学習との往還が期待できる。</p>
<p>社会参画</p> 	<p>課題解決に向けて、環境フェスタを企画・開催したり、観光ガイドとして地域の名所案内をしたりすることを通して、社会への参画意識や課題解決に取り組んだことへの自信や自尊感情が育まれることが期待できる。</p>

# II 岡山型PBLの進め方

## 振り返り

「振り返り」には、自分の考えをまとめ・表現したことに対する「他者からのフィードバック」と、学習過程を通じた自分自身の気づきと成長を振り返る「自己調整のための振り返り」があります。



振り返りとして、感想を書かせて終わることが多くなってしまふよ。  
今の学習が次の学習や将来の生き方につながるようするには、どう改善したらよいかな。

まとめを発表し合った後に、友達や地域の方から得た意見を基に、  
気付いたことや深まったことについて振り返らせるのはどうかな。



### 児童生徒の活動

### 教師の視点例

### 教師の問い掛け例

①目的を明確にして学習を振り返る。

■児童生徒が自分にとっての学ぶ意義や価値に気付くことができるかどうか。

- ・「学習の前後で考えが変わったことは何かな。」
- ・「学習を通してどんなことができるようになったかな。」
- ・「地域での自分の役割は何だろう。」

②学習したことを次の学習や、将来の生き方につなげて見直しをもつ。

■新たな目標や職業、地域との関わり方等、将来の自己の生き方について考え、自分を高めることができているかどうか。

- ・「地域の一員として次はどんなことができるかな。」
- ・「あなたの長所はどんなところで生かせそうかな。」
- ・「何ができるようになりたいかな。」



PBLの学習過程を通して、自分自身にどんな力が付いたのか自覚させることも大切だね。  
うちの学校が身に付けさせたい資質・能力と非認知能力って何だったか、児童生徒は意識できているかな。

児童生徒の学習過程全体を通じた言動について、教師が問い掛け等で価値付けることで、非認知能力を含めた資質・能力が自分に身に付いているかの自覚を促すことにつながるよ。



## ここが岡山型PBL!

非認知能力を含めた自分の内面を見つめる場を設けることで、次の学習や将来の生き方につながるようにします。PBLを通じて「どのような力が付いたのか」を振り返らせることが、自己のキャリア形成につながります。

キャリア・パスポート等を活用して学びの成果を蓄積することで、自分の成長を学年や校種を超えて振り返ることができ、今の学びを自己の生き方につなげることができるようになります。

### 岡山県内の実践例「振り返り」

早島町立早島中学校は、キャリア教育における4つの基礎的・汎用的能力(図5)をESDの視点で捉え直して整理しました。振り返りを通して自己と向き合わせることで、学んだことを将来の生き方につなげて考えるキャリア教育の充実を図っています。



(図5) ESDの視点での基礎的・汎用的能力

### ■評価規準表の作成と共有

学習を通して身に付ける力を意識できるように、発達段階を踏まえた評価規準表(図6)を作成し、生徒や地域の方と共有しています。

また、授業の導入で、生徒自身が学習を通して身に付けたい力を自分で選択するようにしています。

7つの能力・態度	GRADE 1	GRADE 2	GRADE 3	GR4
①批判的に考える力	他にもよい考えはないか考えている。	今ある考えをもとに、よりよい考えを創り出すことができる。	友達の見解を取り入れながら、今ある考えをもとに、よりよい考えを創り出すことができる。	インタビューや様々な方向から調べ、公平な判断をする。
②未来像を予測して計画を立てる力	目標を設定して、計画を立てることができる。	目的を設定して、他者と共有しながらその計画を立てることができる。	過去や現在に基づいて、的確な目的を設定し、その達成に向けて計画を立てることができる。	過去・現在から、今を生きるために、今何を計画するかを考える。
③多面的・総合的に考える力	自分だけでなく、他者の立場で考えることができる。	自分と他者、自分と地域とのつながりを感じ、いろいろな視点から考えることができる。	地域のよさや課題に気づき、問題をいろいろな視点から考えることができる。	関係者、出来事、などを理解し、多面的に考える。
④コミュニケーションを行う力	自分の気持ちや考えを伝えることができる。	自分の気持ちや考えを伝えたり、他者の気持ちや考えを大切にしたりすることができる。	目的に合わせて自分の考えを伝えたり、他者の話を聞き取ったりすることができる。	地域のいろいろな関係者から話を聞き取り、自分の考えを伝える。
⑤他者と協力する態度	他者の考えや行動に共感している。	共通の目的を達成するために、自分にできることをしようとしている。	互いの意見をまとめながら、共通の目的を達成するために行動している。	自分の身近な問題で互いの意見をまとめ、協力して取り組む。

(図6) 評価規準表

### ■振り返りシートの活用

振り返りの時間には、身に付けたい力が示された振り返りシート(図7)を活用することで、どのような力を伸ばすことができたか、今後は何を意識して学習に取り組むかなど、生徒が見通しを持つことができるようになっていきます。



頑張りたいこと/どうやって頑張るか	現在の所①~⑧を記入しよう	振り返り ※左の枠内に5点満点で評価しよう
① 11/5 (木)	⑥ 今日の授業の内容を、今日のワークシートと関連づけ自分なりの考えも、現状社会とつなげる。	4 今日習ったことをワークシートに記入し、どの部分で感じないか自分の意見もつづけてみた。
② 11/9 (木)	② 感染症について知ることが、これからいかに大切かを考える。また、自分なりの考えをまとめてみたい。	3 1生感染症はあまり聞き覚えがなく、自分から調べたいところがある。自分なりの考えをまとめてみたい。

(図7) 振り返りシート



身に付けさせたい力を地域の方と共有することで、学校と地域が一体となって取り組むことができるね。また、振り返りシートを効果的に活用することで、どの程度力が身に付いたか把握できるよ。今の自分と向き合うことで、これからの学習で身に付けたい力についても考えられるね。

# II 岡山型PBLの進め方

## 3 改善に向けて取り組むこと

取組を検証することで、今後の児童生徒の学習意欲の向上や、次年度の教育課程の改善につなげることができます。そのための方法を紹介します。

資質・能力を育成できたか検証する



児童生徒にどんな資質・能力が身に付いたかについては、通知表や指導要録に記載したよ。その後の検証は、どのように行えばよいのかな。

年間指導計画を改善する

児童生徒の学習改善の視点とともに、教師の指導改善の視点が大切だよ。次年度の取組が充実するように、資質・能力をどのように育成できたかという視点で今年度の取組を検証しましょう。



### 検証のための材料例

児童生徒の学習状況の評価結果

取組中のエピソード

取組中の教師の反省

外部人材等へのアンケート

### 検証のポイント

- 「身に付けさせたい資質・能力」を児童生徒や地域と共有できていたか。
- 岡山型PBLの学習過程が2回以上回るなど、学びが段階的に発展していたか。
- 各教科等の単元計画の一部に岡山型PBLが位置付けられ、実践されていたか。
- 地域や企業とねらいを共有して連携できていたか。
- 児童生徒自身が自己の成長を自覚できるような場が設定されるとともに、教師等が児童生徒を適切に評価できていたか。

### 年間指導計画の改善や教師間の共通理解の在り方の見直し

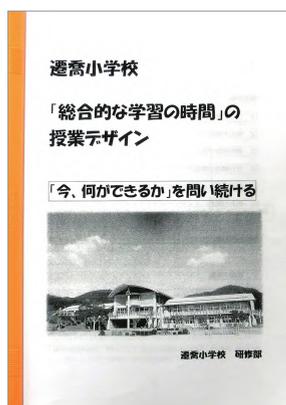


来年度の教育課程の編成を考えるタイミングで、校内の推進組織を動かし、教科等や学年を越えて、学校全体で改善に向けた年間指導計画を見直し、共有しておくよとよいね。系統的かつスパイラルに、身に付けさせたい資質・能力を児童生徒に確実に身に付けられるようにしていきましょう。

## 岡山県内の実践例「カリキュラム・マネジメント」

真庭市立遷喬小学校では、学校教育目標の実現に向けて、これまでの取組の振り返りやまとめを基に「総合的な学習の時間の授業デザイン」という冊子を作成しています。

これを活用して、年度当初に遷喬小学校の考え方を教師間で共通理解しています。取組の成果と課題や、各教科等との関連を引き継ぐことで、カリキュラム・マネジメントの充実につながっています。



### ■柔軟に修正する年間指導計画

遷喬小学校の考え方を教師間で共通理解した後に、各学年で育成したい資質・能力や探究課題を設定し、活動の見通しを立てます。また、「想定と違うことや子どもの失敗があってもよい」と教師が意識することを大切にしています。

そのことにより、児童の活動状況や思いを踏まえて年間指導計画を柔軟に修正することができ、より主体的な学びにつなげることに役立っています。



### ■授業改善に向けた工夫

前年度の取組をそのまま引き継いで行うのではなく、改善していく視点を大切にしています。「総合的な学習の時間の授業デザイン」は、必要に応じてその都度見直され、アップデートされ続けています。

また、児童の学習の足跡である成果物等を学校の各所に掲示したり、それを写真や動画に残したりすることで、継続的な授業改善につなげるとともに、各学年の取組をリアルタイムで伝え合うことで、今年度の取組や来年度の計画をよりよいものにしていく学校文化が醸成されています。



学校教育目標の実現に向け、児童の取組を見ながら柔軟に年間指導計画を修正することで、主体的な学びの充実につながっているね。  
取組の成果と課題を踏まえて授業デザインを更新し続けることは、まさにカリキュラムマネジメントだね。

## 【事例紹介】

### 岡山県総合教育センターHP

先進的な取組を進めている県内小・中・高等学校の実践例が紹介されています。  
<https://www.pref.okayama.jp/page/790621.html>



## 【参考資料】



### 就学前の非認知能力レンズで「いいところ」みつけ!!

非認知能力を伸ばす大事な時期である就学前の子どもを持つ保護者を対象にしたプログラムが紹介されています。ワークブックも掲載されています。  
<https://www.pref.okayama.jp/site/16/777414.html>



### 幼児期の育ちの姿

幼児期で大事にしたい視点や留意しておくことが紹介されています。  
<https://www.pref.okayama.jp/site/16/611608.html>



### PBLガイドブック(高校版)

「総合的な探究の時間」におけるPBLの考え方や、岡山県の高等学校での実践が紹介されています。  
<https://www.pref.okayama.jp/site/16/778524.html>



岡山ゆかりのセンパイから

### 夢ボイス

各方面で活躍している岡山県にゆかりがある方々の「夢の実現や自己実現に至る道程」を主題にした約10分のインタビュー動画が掲載されています。

[https://youtube.com/channel/UC-3pf6lCrxb7a-\\_A9-PnBA](https://youtube.com/channel/UC-3pf6lCrxb7a-_A9-PnBA)



### おかやま まなびとサーチ

子どもたちの主体的な学びにつながるよう、子ども一人ひとりに応じた学習活動や学習課題に取り組む機会となる岡山県の「人」や「もの」にこだわった動画コンテンツが多数掲載されています。

<https://www.okayama-c.ed.jp/manabi-to-search/>



## 【参考・引用文献】

「小学校学習指導要領」（平成29年、文部科学省）

「中学校学習指導要領」（平成29年、文部科学省）

「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」（令和3年、文部科学省）

## 【写真・事例提供校】

玉野市立玉原小学校

玉野市立大崎小学校

井原市立県主小学校

真庭市立遷喬小学校

浅口市立寄島小学校

玉野市立荘内中学校

高梁市立高梁中学校

真庭市立湯原中学校

早島町立早島中学校

## 【岡山型PBLガイドブック検討委員会】 ※職名は令和5年3月現在

委員長	中山 芳一	岡山大学教育推進機構	准教授
	村川 雅弘	甲南女子大学人間科学部	教授
	高橋 正志	岡山県中小企業家同友会	代表理事
	江森 真矢子	一般社団法人まなびと	代表理事
	中川 智裕	井原市教育委員会学校教育課	指導主幹
	内部 誠治	倉敷市立味野小学校	校長
	樫田 健志	倉敷市立庄中学校	校長



- 本資料の無断転載は禁止します。
- お問い合わせは岡山県教育庁義務教育課(086-226-7584)までお願いします。

育てたい非認知能力  
夢育

令和5年3月発行  
「岡山型PBLガイドブック」  
編集兼発行 岡山県教育委員会